

紹介 | Introduction

カンボジア農村部におけるSDGsエコビレッジに関する考察
—法人代表者へのインタビュー調査と報告資料から—

Consideration on SDGs Ecology Village in Rural Cambodia
: From Interview Surveys and Report Materials with Corporate Representatives

仲井 勝巳
NAKAI, Katsumi

尚美学園大学
総合政策学部非常勤講師
Shobi University

2021年12月

Dec.2021

カンボジア農村部における SDGs エコビレッジに関する考察 —法人代表者へのインタビュー調査と報告資料から—

Consideration on SDGs Ecology Village in Rural Cambodia
: From Interview Surveys and Report Materials with Corporate Representatives

仲井 勝巳

NAKAI, Katsumi

[要旨]

本研究で、カンボジア農村部における SDGs エコビレッジに関するインタビュー調査と報告資料から次のことがわかった。農村部の人々の収入は低く、出稼ぎや貧困の問題がある。村の子ども達は高校までほとんど進学していない。都市部で就職するには高卒でないと厳しい現状がある。その観点から、村で産業が確立し、一定の収入を得ることができればそれらの問題を解消することに期待できる。SDGs エコビレッジは、学歴に関係なく職業訓練的な要素を持っている。さらに、近隣の14ある村において、今後中学校や高等学校の誕生にも可能性があり、将来的に子ども達の就職にもつながるだろう。

SDGs エコビレッジの取り組みを、主に「1. 貧困をなくそう」「4. 質の高い教育をみんなに」「5. ジェンダー平等を実現しよう」「8. 働きがいも経済成長も」「9. 産業と技術革新の基礎をつくろう」「10. 人や国の不平等をなくそう」「17. パートナリシップで目標を達成しよう」の項目との関連性についてまとめた。そして、今後も活動に注視し、持続可能な開発目標を目指していく中で、多くの可能性を模索することが必要であろう。

キーワード

カンボジア農村部, SDGs, 地域社会, 学校教育, 人権

[Abstract]

In this study, the following was found from interview surveys and report materials on SDGs ecovillages in rural Cambodia. Villagers have low incomes and have problems with migrant workers and poverty. The children in the village rarely go on to high school. It is difficult to get a job in an urban area unless you have a high school diploma. From that point of view, if the industry is established in the village and a certain amount of income can be earned, it can be expected that these problems will be solved. The SDGs Ecology Village has a vocational training element regardless of educational background. In addition, there is a possibility that junior high schools and high schools will be born in 14 neighboring villages in the future, which will lead to employment of children in the future.

The efforts of the SDGs Ecology Village in this study are mainly "1. No Poverty", "4. Quality Education", "5. Gender Equality", "8. Decent Work and Economic Growth", "9. Industry, Innovation and Infrastructure", "10. Reduced Inequalities", and "17.

Partnerships". It will be necessary to continue to pay close attention to activities and explore many possibilities while aiming for sustainable development goals.

Keywords:

Rural Cambodia, SDGs, Local Society, School Education, Human Rights

1 はじめに

筆者は2009年12月に初めてカンボジアを訪れ、シェムリアップ州から車で1時間程度の距離にあるトロペアントム村の学校建設の支援活動に携わった。その村では、学校がなくて子ども達は隣村まで歩いて通学するしかなかった。その村には、小学校低学年の校舎ができ、子ども達が中学年以上になると体力もついて隣村まで通うことができるようになった。その後、筆者はカンボジアに4度訪れ、筆者は建設された小学校で科学教育に取り組んだ¹⁾ことがある。そして、当時学校建設に関わった代表は、法人の代表者としてトロペアントム村にて活動している。

2021年年度において、カンボジアのトロペアントム村ではSDGsエコビレッジ（図1）が取り組まれている。それは学校、工房、農業、レストラン、宿泊所が一体になった場所をエコ建築で創り出すことである。建築予定の学校では国語、算数に加えSDGs、英語、伝統舞踊（アップサラダンス等）の授業を取り入れ自分の国の誇りを守ること、外の世界でも活躍できる子ども達を育てること、さらに、大人はエコ建築、農業、籠作りの仕事を主とし生活の基礎を支える収入を生み出すことを目指している。



図1. SDGsエコビレッジの完成イメージイラスト（一般社団法人Kissoの資料より）

¹⁾ 仲井勝巳（2021）は、カンボジアの幼稚園・小学校における科学教育の試みを行った。実際に本研究と対象となったトロペアントム村も過去にフィールドワークを通して現地の人々と関わったことがある。

SDGsとは国連が掲げる持続可能な開発目標のことで、17項目がある。貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、人々が直面するグローバルな諸課題の解決を目指している。そして、「誰一人置き去りにしない」ために、2030年までに各目標・ターゲットを達成することが重要であるとされている。

カンボジアのSDGsに関する先行研究では、中村・細井（2020）が開発プログラムにおけるジェンダー平等の視点に関する社会調査の考察において、様々なフィールドで行われる開発を進めて行く上でジェンダー平等の実現を念頭に対象社会のジェンダー課題を把握するための調査を行った。その結果、プログラムのプロファイリング段階よりプログラムのデザインやプログラムの実行段階のマネジメントに必要な措置を反映することが重要であることを示した。これは、ジェンダー平等、ダイバーシティやインクルージョンの実現は開発プログラムの効果を最大化する上でも必須の条件と捉えている。

米倉（2018）が実施した現地の家庭訪問などでは、母親の出稼ぎにより乳幼児の成長に負の影響を与える傾向がみられることがわかった。この調査時期の国内工場労働者は100万人、海外出稼ぎ労働者は150万人といわれ、母親が乳幼児を祖母に預けて出稼ぎに行く傾向は減らないであろうと指摘している。

Lwin・山川（2014）のシェムリアップ州内の農村調査では、ラタン手工芸品（Rattan Handicraft: 以下RH）産業で得ることが出来る所得額は、その他の職業に比べると非常に低いことがわかった。また、世帯所得額に関する分析の結果、ポピセ村では一般的に低くなりがちである女性世帯主世帯の方が男性世帯主世帯よりも高く、この差は主に産業以外の所得の差によるところが大きく影響していた。この村における世帯経済状況改善のためには、現在産業に従事している人が、より所得が高い職業へと転職することが有効であることを指摘した。RH産業には村民が各家庭から遠く離れずに行えるという他の職業にはない大きなメリットを持っており、この産業には開発の余地が残されていることも明らかになった。現在の村の社会状況を崩さずに経済的な改善を目指すために、今後の課題として、RH産業の開発を進めるために村人のビジネス意識を向上させることやトレーニング施設建設を行い検証することを示唆した。

野田真里（2019）は、カンボジアの開発における教育とSDGsの展開において「包括的で公正な」教育の推進の必要性を示した。包括的で公正な質の高い教育の実現に向けて、直面する現状と課題について、産業人材の育成、教員の質の向上が課題、グローバル化や地域統合の進展にともなう出稼ぎ、移民労働者、人身取引等の眼に見えない「取り残される」人々の存在を指摘している。

田邊美樹（2020）は、カンボジアでの音楽を介したSDGs活動において、音楽リテラシーについて、音楽は自己の表現を超えて民衆の心に入り込み感情をくすぐり扇動する役目を果たしてきたこと、また、音楽は良くも悪しくも社会の動向と連関しつつ変化してきたことを考察した。

以上、SDGsの観点や先行研究から、本研究では、カンボジアの農村部におけるSDGsエコビレッジの取り組みがどのように取り込まれ、どのような効果が期待されるのかを考察し、紹介することを目的とした。

2 方法

2021年7月11日に、当該法人代表へのインタビュー調査（30分程度）や定期的に報告されている資料を基に考察を行った。当該法人代表はカンボジアに在住しているため、電話による音声で行った。なお、本研究の趣旨を説明し、資料提供及び活用の許可を得た。インタビューでは、SDGs エコビレッジの活動内容に関して、適宜質問を工夫するなどの半構造化面接を取り入れて実施し、メモを取得した。また、本研究は、倫理面の配慮として、大阪総合保育大学研究倫理委員会の承認を得ている。

3 結果

3-1. 当該法人代表の報告資料²⁾ から

3-1-1. SDGs エコビレッジとは

それは、学校、工房、農業、宿泊、遊び場がひとつになった施設（図2）である。そして、確かなエコ建築技術、竹加工事業、商品販売事業、豊かな土地と農業、デザインされた魅力ある観光施設、公立学校すなわち夢を見つけられることができる SDGs スクール、関わった人々の溢れた遊び場になることを目指している。

カンボジアには豊かな自然とともに、竹素材を使った建築技術がある。一部地域では竹建築が見られるが、職人の人数は多くない状況である。法人団体では、竹建築や竹商品の価値を高める活動を行っている。竹建築の質・スピード・デザイン性を引き上げるために、現地の竹職人と連携をとり日本の竹技術も取り入れ現地で応用している。



図2. SDGs エコビレッジの完成イメージ（一般社団法人 Kisso の資料より）

²⁾ 図1、図2、図3、図4、図5、図6、図7に関しては、当該法人代表へのインタビューの際に現地の活動写真や資料提供を得た。写真に関しては、撮影された代表者に許諾を得ている。資料は、一般社団法人 Kisso により作成されており、そこから引用したものである。また、当該法人代表から資料提供及び利用許諾を取得し、尚美学園大学総合政策学会の編集委員会に提出している。なお、個人情報の観点から当該法人代表の氏名を明記しないことにした。なお、資料データ利用元の当該法人代表者とインタビュー対象者は同一人物である。

3-1-2. 今後の活動方向性

2021年から2022年にかけて、4つの段階段階（図3）において取り組んでいる。SDGs エコビレッジの認知を拡大し、子ども達の未来が変わることを伝えていく。同時に、ビレッジ建設を通して、現地の住民の職人育成を進めていく。就労年齢の子どもたちを竹職人の職人見習いとして雇いながら学ぶ仕組みを整える。（※竹什器、家具の制作はわずかだが必要がある。）

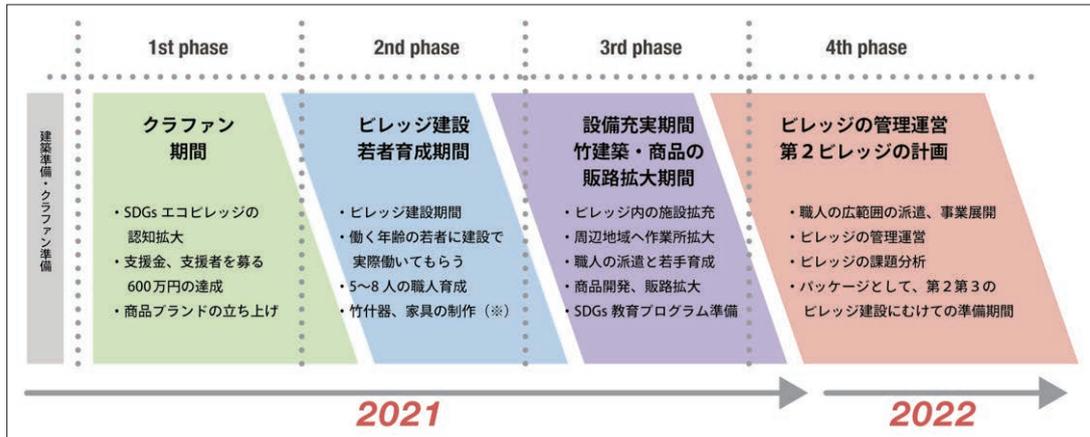


図3. SDGs エコビレッジの活動段階に関する概観（一般社団法人 Kisso の資料より）

3-1-3. 描く未来（教育・技術などのサポート募集）

企業やクリエイターの技術サポート、社会団体との協働（図4）によって、事業拡大や職人育成が大きく加速することになり、未来を近づけることが可能となる。



図4. 求めている教育例（一般社団法人 Kisso の資料より）

3-1-4. 新しい未来を、共に創る

新しい未来は、すぐそこまできており、共に作る仲間を募集している。SDGs エコビレッジの活動や取り組み（竹建築、竹細工、子ども達の遊び場、学び場、伝統舞踊等）を共有することにより、現地とのつながりを感じることができる。図5は、竹細の灯籠である。この灯籠の前で、伝統舞踊を踊るなどの文化的な活動に取り組み、未来に向けて試行錯誤している。



図5. SDGs エコビレッジの取り組みの様子（当該法人代表からの写真提供）

3-1-6. VISION2023

SDGs エコビレッジの VISION2023 に関する概観を図6に示す。それは、「未来を築くリーダーの種を育てる」ことである。カンボジアはこれからの発展で世界をけん引する国のひとつとせいで成長するために、社会サステナビリティを考えられるリーダーの育成が必須となってくる。すなわち、【働く場所】と【教育の場所】は、切っても切り離すことができず、同時に創出していく必要がある。



図6. SDGs エコビレッジの VISION2023（一般社団法人 Kisso の資料より）

3-2. 当該法人代表のインタビュー調査から

当該法人代表のインタビュー調査から次のことがわかった。カンボジアの農村部では都市部と比べ多くの課題がある。例えば、インフラが進んでいないこと、電気が数年前にやっと入るようになったこと、収入が低いことがある。その原因として「稼げる仕事がない。就ける仕事がない。読み書きができず仕事の選択肢が少ない。」等がある。農村部での仕事は、一般的にお米を作る農業である。女性は「籐」を使って、籠、アクセサリー等（図

7) を作成し、フェアトレードとして販売を展開している。籐バンブルも試作し、内容を吟味している。男性は竹建築を仕事にしている。土地の柵、入り口を完成させたり、窯を作りピザを焼いて食べてみたりしている。

SDGs エコビレッジは小学校の認可（2 教室）を受ける予定である。学歴に関係なく職業訓練的な要素を持つ。村の子ども達は高校まで進学できておらず、都市部で就職するには高卒でないと厳しい現状がある。14 ある村の子ども達が1つの中学校に通うことから、SDGs エコビレッジは今後中学校や高校の誕生にも可能性を秘めており、将来的に子ども達の職種の幅を広めることが期待されるだろう。そのために、竹建築の大工との打ち合わせ等、完成に向けて日々試行錯誤しながら、現地スタッフとの連携の重要性が必要とされていることもわかった。



図7. 「籐」を使って作成している籠（当該法人代表からの写真提供）

4 考察とまとめ

先行研究では、中村・細井（2020）がプログラムのデザインや実行段階のマネジメントに必要な措置を反映することが重要であることを示したように、この SDGs エコビレッジも同様に実行段階のマネジメントが必要とされるだろう。そして、農村部における職業内容に関するジェンダー平等やダイバーシティの問題にもつながると考えられる。

米倉（2018）が、母親の出稼ぎに関して乳幼児の成長に負の影響を与える傾向を示したように、このトロペアントム村では、母親だけでなく家族全員が出稼ぎに行くといった農村部ならではの課題がある。出稼ぎをしなくても、しっかりと収入を得られるような職業が農村部にあれば解決する方向に向かうと考えられる。さらに、産業に焦点を置くと、女性は「籐」を使って、籠、アクセサリ等を作成しフェアトレードとして販売を展開している。しかし、Lwin・山川（2014）が、RH 産業の開発を進めるために村人のビジネス意識を向上させることやトレーニング施設建設を行い検証することを課題として示していることから、同様にトロペアントム村においても「籐」産業の開発を進めるために村人のビジネス意識やトレーニング施設建設を検証していくことも必要ではないかと考えられる。現状、この村では女性が「籐」を取り扱っているが、今後、男性もビジネスとして成立させる上で検討の必要性が出てくるだろう。また、竹建築においては、男性が主となっ

表1から、このSDGsエコビレッジの活動は各項目と連携していることがいえる。例えば、教育と貧困は密接な関係があると考えられる。そして、これらSDGsエコビレッジの活動から、まさに「誰一人置き去りにしない」という取り組みの実現に期待されているといえよう。カンボジアの都市部と農村部では、人々の生活、教育やインフラ等は大きく異なる事情がある。そのため今後も引き続き、カンボジア農村部におけるエコビレッジの活動を注視し、その取り組みから多くの可能性を明らかにできるのではないだろうか。

付記

本稿は、2021年9月の日本理科教育学会第71回全国大会（群馬大会・オンライン開催・論文集第19号p394）において、筆者が発表したテーマ「カンボジア農村部におけるSDGsエコビレッジの取り組み - 法人代表者へのインタビュー調査から -」を大幅に加筆修正し紹介したものである。

本研究において、当該法人代表からインタビューの協力や資料提供をいただきました。ここに深くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

引用・参考文献

- 千葉義信・小山慎一・植屋清見（2012）「都市部と農村部で生活するカンボジア児童の体格及び体力比較：コンボンチャム州9歳～11歳に着目して」『帝京科学大学紀要』8, 127-133.
- 一般社団法人Kisso（2020）「KissoのSDGsエコビレッジが描く未来」,1-10.
- Lwin Maung Maung・山川貴裕（2014）「カンボジア農村部における家内産業の可能性：シェムリアップ州ポピセ村におけるラタン手工芸品産業について」『海外事情研究』42（1）, 1-23.
- 宮川皓子・岩間美代子・宮川洋一郎（2020）「カンボジアの教員養成大学におけるSDGsを活用した環境教育の普及活動」『日本印刷学会誌』57（2）, 83-88.
- 仲井勝巳（2020）「カンボジア農村部の小学校における科学教育・環境教育の試み」『日本科学教育学会年会論文集』44（0）,643-646.
- 仲井勝巳（2021）「カンボジアの幼稚園・小学校における科学教育の試み：農村部でのフィールドワークを通して」『聖学院大学論叢』33（1・2）,1-16.
- 中村明・細矢ひかる（2019）「開発プログラムにおけるジェンダー平等の視点に関する考察：～カンボジアでの社会調査から～」『国際P2M学会研究発表大会予稿集』2019. Autumn（0）, 336-355.
- 野田真里（2019）「カンボジアの開発における教育とSDGsの展開」『比較教育学研究』（58）, 113-120.
- 貫久望子・北脇秀敏（2017）「カンボジア農村部における経済状況と手洗い剤の選択に関する研究」『農村計画学会誌』36（1）, 46-52.
- 岡田千あき（2020）「「ミレニアム開発目標」時代の「開発と平和のためのスポーツ」：—ホームレスワールドカップ出場国の事例の比較検討—」『スポーツ社会学研究』28（1）, 7-20.
- サムレト ソワンルン（2017）「カンボジアの農村部における貧困世帯の予備調査の結果

- 及び考察：プレイベン州メيسان郡アンコール・ソーコミュニケーションの事例」『埼玉大学紀要・教養学部』53（1）, 59-70.
- 白井睦子・高村一知（2009）「カンボジア農村部における小学生の食生活」『日本食生活学会誌』20（1）, 55-62.
- 田邊美樹（2020）「カンボジア音楽活動とSDGs」『メディア情報リテラシー研究』1（2）, 70-82.
- 米倉雪子（2018）「カンボジア農村女性の出稼ぎによる生計と乳幼児の栄養・成長への影響に関する一考察：一現状と課題一」『農村計画学会誌』37（1）, 33-38.

参考 WEB

国連本部（2021年10月1日確認）

<https://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/>

国際連合広報センター（2021年10月1日確認）

https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/31737/